

2022 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 レジリナイト Hiroshima

代表者・役職名 氏名 事務局長 津森正裕

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

レジリエンス力が高い地域を目指す防災・減災情報交流会事業

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

南海トラフ巨大地震対策等として、広島地域の企業・団体による自主的な市民防災活動を目的に2018年12月に5名で設立しました、現在では約120名が登録しており、防災・減災をテーマに定期的に情報交流を行っています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

- 「自助」・「共助」・「公助」のバランスのとれた取組みが必要であり、地域の行政、専門家等と市民・企業とのネットワークを構築し、お互いを少し深く知るキッカケづくりの場としての機能を拡充したいと考えています。
- 特に地域における身近な情報共有が効果的であり、今回の助成を活用して、情報提供(講師)の質的、量的な充実を図る企画を検討しています。
- コロナ禍での活動対応としてオンラインミーティング対応を強化しています

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- 防災・減災をテーマにする、広島地域の企業・団体等への定期的な交流会開催
- 参加主体間によるネットワーク構築の場を提供
- 企業、女性、若者など、一般的には関心が低いと考えられている年代層や団体に向けた防災・減災の情報共有の場を提供

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- ・ 防災・減災の情報交流会を9回開催しました。参加人数は10名~30名(/回)です。5月に開催されたG7広島サミットと連携した、市民サミット(C7)の活動にも防災・減災に関連するイベントを開催し、幅広い参加者にも話題提供することができました。
- ・ コロナ禍でのオンライン開催にも取り組み、最近では安定した運営ができるようになっていきました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

- ・ 地域で取り組みが始まっている地区防災計画への参画など、地元企業や地域との一層の連携強化を図りたいと考えています。今後も幅広い市民・企業との連携を図るとともに、今後は、小学生への防災教育、企業分野で取り組みが進んでいるBCP(事業継続力計画)的な発想を地域の活動に活かすことを企画する予定です。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください

